

# ジブリ絵職人の アニメ筆

「ハウルの動く城」(平成十六年)

「ゲド戦記」(平成十八年)

「崖の上のポニョ」(平成二十年)

「借りぐらしのアリエッティ」(平成二十二年)

スタジオジブリ映画の魅力の一つに背景画(アニメーションの動かない絵)の美しさがあげられる。それは、見ていると動かない絵の美しさがあけられ、それは、ませるふしぎな魅力にあふれている。しかも一本の映画には、千まいをこえるほどの背景画がかかっている。それには、一本の筆で細かい線から幅のある広い面まで描けるオールマイティな筆が必要だ。よい背景画をかくために、使いやすい筆を使うことはとても大切なことなのだ。実は、ジブリの映画制作では、熊野町で一本一本手作りされた筆も使われている。

平成十四年春のこと、熊野町役場のそばにある筆工場の代表である西田さんに連らくが入った。トロで背景画をかいたジブリ絵職人の男鹿和雄さんが、数年前から質の低下した筆になやみ、スタジオジブリのスタッフと共に新たな筆を探していたのだ。そんな時、熊野町の「筆の里工房」を訪れたことで、熊野町の筆職人が筆をつくることになったのである。日本画筆を製造していた西田さんがその伝統技術を生かして筆の改良品をつくることになった。その日から、アニメ用筆づくりの試行錯誤の日々が始まった。さつそく、男鹿さんが大切にしていた使い心地のよい筆が見本として送られてきた。求められていたのは、穂先のまとまり、適度な弾力、色ふくみのよさ、しなやかな描き心地である。そして、長持ちすることも求められた。西田さんは、「絵職人をうならせたい。」と見本の筆をにぎりしめた。プロ中のプロに満足してもおうと「こだわり筆」を求めて挑戦が始まった。

「あがつた筆をスタジオジブリに送った。使いこたはできませんが、満足するものではない。鹿さんからのファックスの前で西田さんは何も言えなかつた。」



「一年ほどで筆を使つてもらえるようになった。しかし、その後も電話で、望は、ファックスでそして行く。望にかなう筆がなかなかつかず、試行錯誤の日々が続いた。」

男鹿さんのファックス

(希望)



全ての毛が先端の中心に向つてそろそろ同じ感じで集つていく。(弾力)

「使い始めは、おつ、今回のは！という感じ。しかし、何日か使になつてくれないのが気になつてきました。」

(今日の筆)

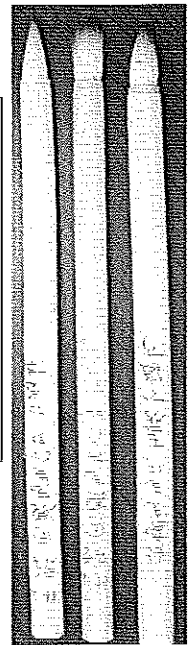


上への形はわり易い。毛の入り始めから先端の位置と形が思いどおりにできると、毛がそろそろ集まってくる。

「『練りませ』をしつかりしてみよう。」「もつと、弾力や穂先のまとまりがほしい。」「『選毛・毛組』をやり直そう。」

西田さんは、望のたびに、一つ一つ新しいタツフの「こだわりの筆」を求めて大変な思いで、改良に改良を重ねていった。

男鹿さんに送った筆



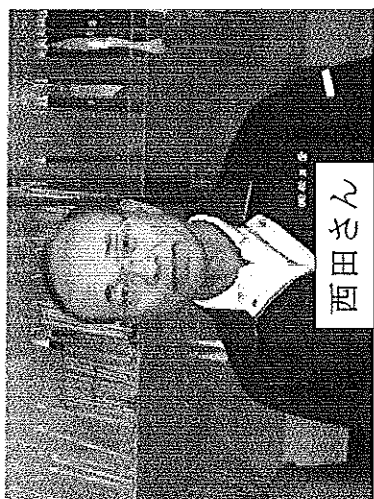
こうしたスタジオジブリとのやりとりにより、一本の筆で細かい線から幅のある面まで描けるオールマイティな筆ができあがった。ジブリスタッフから「ここ何年かこちらの要望をもとに試行錯誤をされて、このように使いやすい筆に仕上げてください、感謝しております。」

こんなフアックスが届いた。今ではスタジオジブリの多くの筆が熊野町でつくられた筆なのである。熊野筆が、スタジオジブリの映画づくりにとって重要な役割を果たしている。そして、他のアニメ会社でも熊野筆は使われるようになってきた。熊野の伝統技術がアニメ映画の世界にも役立つているのだ。熊野の伝統技術がアニメ映画の世界にも役立つているのだ。

しかし、ジブリ絵職人と筆職人による、妥協をゆるさぬものづくりは終わったわけではない。改良は今もそしてこれからも続いていく。改良は今もそして

「こだわりの筆をめざして改良し続けていきたい。」

と西田さんは、アニメ筆を手にも熱い思いで語る。



西田さん



西田さんと男鹿さん

【注】

- (1) 失敗を重ね、だんだんよくしていくこと
- (2) もとめのぞむこと
- (3) あらためてよくすること
- (4) 両方が折れあつて、話をつけること

【参考文献】

男鹿和雄 スタジオジブリ責任編集「男鹿和雄画集Ⅱ」  
 徳間書店 二〇〇五年

# 「シブリ絵職人のアニメ筆」ワークシート

年 組	
-----	--



◎ 「シブリの筆」を知ったとき、感動を覚えました。ぜひ、みんなにも紹介してほしいです。


○ 田嶋先生の話を聞いて、感動を覚えました。ぜひ、みんなにも紹介してほしいです。


# 伝統と文化 「ジブリ絵職人のアニメ筆」

〔小学校高学年 主題：よりよいものをつくる 内容項目：1の(5)〕



授業展開例 ー学習指導案(略案)ー

(ア) 主題名 よりよいものをつくる 1ー(5)

(イ) ねらい

西田さんの筆づくりに対する思いに共感することを通して、常によりよいものを求めて創意工夫し、粘り強く取り組もうとする心情を育てる。

(ウ) 資料名 「ジブリ絵職人のアニメ筆」

(エ) 学習指導過程

	学 習 活 動	主な発問と児童の心の動き	留 意 点 (☆評価の観点)
導 入	1 背景画を見て感想を出し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「借りぐらしのアリエッティ」の背景画を見てどんな感想をもちましたか。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・こまかい。</li> <li>・本物みたい。</li> <li>・すごいたくさん描くんだな。</li> </ul> </li> <li>○ この絵は熊野でつくった筆で描かれているのです。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ できるだけ大きくして臨場感をもたせる。</li> </ul>
展 開	2 資料「ジブリ絵職人のアニメ筆」を読んで話し合う。 ○1場面  ○2場面  ○3場面	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ プロ中のプロから「こだわりの筆」を頼まれたとき西田さんはどんな気持ちになったでしょう。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・男鹿さんの注文に応えたい。</li> <li>・よい筆をつくりたい。</li> <li>・よしががんばるぞ。</li> </ul> </li> <li>○ 「満足するものではない。」と言われたとき西田さんはどんな気持ちになったでしょう。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・大変だ。</li> <li>・せっかかにつくったのに。</li> <li>・つくってもつくっても満足してもらえない。</li> </ul> </li> <li>◎ 「こだわりの筆」をめざしてどんな気持ちで工夫したのでしょうか。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・これで要望に答えることができる。</li> <li>・オールマイティな筆ができる。</li> <li>・穂先がまとまるぞ。</li> <li>・雑に使っても穂先がまとまるぞ。</li> <li>・工夫して、満足してもらえる筆をつくるぞ。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 西田さんのことを知らせてから資料を読む。</li> <li>○ 「こだわりの筆」とはどういうものか確認する。</li> <li>○ 試作を依頼された喜び、やる気をおさえる。</li> <li>○ 工夫してつくっても満足してもらえない辛さにも共感させる。</li> <li>○ ファックスを見せ、臨場感を出す。何度もファックスでやりとりし、大変な作業であったことを実感させる。</li> <li>○ 「こだわりの筆」をめざして工夫をした時の心情を考えさせる。</li> <li>○ ワークシートに書き、自己内対話を促す。時間をと</li> </ul>

	○4場面	<p>○ 熱い思いで語っている西田さんは、どんな思いなのでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロに満足してもらえるとうれしい。</li> <li>・使ってもらえる筆をつくってよかった。</li> <li>・まだまだよい筆をつくりたい。</li> <li>・熊野の伝統をつなげたい。</li> <li>・筆づくりの技術向上になる。</li> </ul>	<p>ったらペアトークで交流する。</p> <p>☆ 書く活動を通して、西田さんの筆づくりにかける「こだわり」を自分に引きつけて思考することができたか。</p> <p>○ 理想に近づく筆をつくることができた喜びや熊野の伝統技術を継承したい思いをおさえる。</p>
終末	<p>3 ビデオメッセージのお話を聞く。</p> <p>4 自分の思いを振り返る。</p>	<p>○ 西田さんのお話を聞きましょう。</p> <p>○ 西田さんの思いを知って、みなさんはどんなことを考えましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こだわりのある生き方がすごいな。</li> <li>・熊野筆の伝統を生かして、新しいことも考えている。西田さんはすごいな。わたしも頑張りたい。</li> </ul>	<p>○ メッセージを感じ取る。</p> <p>○ 自分がどう考えたかワークシートに書くことで、自分の考えを整理し、一層確かなものにする。</p>

## 1 主として自分自身に関すること

### 【第5学年及び第6学年】

(5) 真理を大切にし、進んで新しいものを求め、工夫して生活をよりよくする。

自己をより創造的に発展させ、新しく進歩したものを積極的に取り入れ、創造し、工夫する態度をもった児童を育てようとする内容項目である。それは、科学的な探究心とともに、物事を合理的に考え、真理を大切にしようとする態度を養う中で育つものである。

児童は、知らないことを知りたいという欲求をもっている。しかし、物事への興味・関心が薄れ、教えてくれることを待つ受け身的な傾向が強まることも見られる。児童が疑問を大事にし、物事のわけをよく考えたり確かめたりして、個性ある考え方が認められるような経験を積み重ねることが重要であり、そのような中で、真理を愛する心や、生活を改善していこうとする態度がはぐくまれると考えられる。特に、今日の変化の激しい社会においては、主体性をもって柔軟に対応し、科学的な探究心を育て、新たな自己をつくっていくことが求められる。なお、このような態度は、第3・4学年の段階においても、例えば、正しいと判断したことを勇気をもって行うことなどに関する指導を通じてはぐくまれている。

第5・6学年にもなると、児童は次第に現状に甘える傾向も見せる。その殻を破って、児童の感じ方や考え方をより創造的で可能性に富むものにしていかなければならない。特にこの段階においては、真理を求める態度を大切にし、創造的で知的な活動を通して興味や関心を刺激し、意欲を喚起させ、物事を多様な発想でとらえるとともに、自分の生活を少しでもよくできないかと考え、工夫できるよう指導することが大切である。

## 1 主として自分自身に関すること

### 【中学校】

- (4) 真理を愛し、真実を求め、理想の実現を目指して自己の人生を切り拓いていく。

いかなる時代に生きても、人は自己の人生を切り拓いていく積極性と力強さをもつことが大切である。真理とは、だれも否定することのできない普遍的で妥当性のある物事の筋道、道理を指し、真実とはうそや偽りのないことである。共に人間らしい誠実な生き方がかかわってくると考えられる。そして、理想は、この真理や真実を探求した結果、自分の人生をかけて実現すべき価値を見いだしたときに強く意識されるものである。よりよく生きる力は、こうした積極的な生き方を追い求める中で培われるものである。

中学生の時期は、人間としての生き方や社会のしくみなどについての関心が高まってきて、自分の将来に向かって理想を求める傾向が強くなっていく。そこには、自分の人生をよりよく生きたいという内からの願いがある。しかし、その描く理想は必ずしも自分の置かれている現実についての十分な認識に立っているものではなく、自分を過大視したり、安易に現実に妥協したり、集団の中に埋没して主体性を失ったりして、ときには絶望したりすることもある。現実と遊離した理想を性急に求めるあまり、その夢が破れたときは人生のむなしさを感じてしまうことも多い。

指導に当たっては、学ぶことや人間や社会の在り方について、分からないことを謙虚に受け止めて探求し続け、真理や真実を求めつつ、生きることについての意味を見だし、目標をもち、よりよく生きようとする積極的な態度を育てることが重要である。そのためには、的確な判断力をもって現実を見つめたり、将来に向かって理想を実現していくことの大切さについて、自己の生き方とのかかわりをもって考えられるようにすることが肝要である。そして、絶えず高い理想を求め、志をもって明るく生き生きと生きることが、人生に意欲をわかせる、自分の生涯を豊かにすることにつながることを自覚できるようにすることが必要である。